

基本目標 4 自然共生社会の構築

1 生物多様性の保全



●現状と課題

- 2022年（令和4年）12月に、生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において、「30by30」など新たな生物多様性に関する世界目標として「昆明・モントリオール生物多様性枠組」が採択されました。
- 2023年（令和5年）3月に、新たな生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的な計画となる「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定されました。
- 「レッドデータブックひろしま2021」によると、本市には、247種の絶滅のおそれのある野生生物が確認されています。そのうち、魚類のスイゲンゼニタナゴについては、2014年度（平成26年度）に地域住民、地域の各種団体、有識者などで構成される「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」が設立され、生息状況調査や系統保存の実施、イベント等での周知啓発などに取り組んできました。
- 在来の生物を食べたり、すみかや食べ物を奪ったりして、生態系を脅かしている侵略的な外来生物が確認されており、生物多様性を保全する上で、大きな問題となっています。
- 本市では、ヌートリアやアライグマのほか、オオクチバス（通称：ブラックバス）、ブルーギル、オオキンケイギクなどの外来生物が確認されており、有害鳥獣については、計画的に防除活動を行っています。
- 今後、市民の生物への関心を高めるとともに、外来生物を増やさないため、正しい知識を普及させる必要があります。

●施策の方向性

生物多様性への関心を高めるとともに、希少野生動植物の保護活動や外来生物対策を行います。

環境指標	現状 (2022年度)	目標 (2028年度)
生物多様性の保全に関心を持っている人の割合	21.2%	31%

1 希少野生動植物の保護

ア 希少野生動植物の保護

- 生物への関心を高めるため、積極的に情報発信を行います。
- 希少野生動植物の生息状況の把握に努め、希少野生動植物の持続的かつ計画的な保護活動に取り組みます。＜重点プロジェクト4，P46参照＞

イ 生物生息環境の保全

- 自然の特性を活かした河川整備を行い、生物の良好な生息環境づくりに取り組みます。

2 外来生物対策

- 関係機関と連携し、外来生物に関する情報発信を行うとともに、ホームページやSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などの活用により、正しい知識を普及啓発します。
- 外来生物の実態を把握するほか、必要に応じて防除を行うことで、新たな外来生物の定着を防止します。

2 里山・里地・里海の保全



●現状と課題

- 里山里地は、適正に管理することによって特有の環境が形成・維持され、多くの野生生物を育む場となっています。しかし、森林・農地の利用の低下や農林水産業の担い手の減少などにより、里山里地における活動が縮小し、生物の生息域の消滅や生物種の減少、水源涵養機能の低下が進んでいます。
- 鞆の浦や備讃瀬戸地域が含まれる瀬戸内海は、1934年（昭和9年）にその多島海景観の美しさが評価され、日本で最初の国立公園のひとつである「瀬戸内海国立公園」に指定され、その景観の保全が求められています。
- 1973年（昭和48年）に施行された「瀬戸内海環境保全特別措置法」などにより、水質改善などの成果が見られるものの、依然として生物の多様性や生産性の確保に課題が残っています。2021年（令和3年）には法改正が行われ、「気候変動」の観点の基本理念に加えられたほか、新しい時代にふさわしい「里海」づくりを総合的に推進する考え方が明確にされました。
- 本市では、里山里地の保全活動や耕作放棄地対策、漁協などと連携した海ごみの清掃活動などのほか、栄養塩類の適正管理に取り組んでいます。
- 今後は、農林水産業の担い手を育成するとともに、里山・里地・里海を守る活動を継続することで、私たちの暮らしを支える森・里・川・海のつながりを確保することが重要です。

●施策の方向性

農林水産業の担い手を育成するとともに、里山・里地・里海の保全活動を推進します。

環境指標	現状 (2022年度)	目標 (2028年度)
里山里地地域指定数	8地域	9地域
森林整備面積	9.46ha/年	20ha/年 ^{注)}

注) 福山市農林水産振興ビジョンの数値目標

1 里山・里地の保全

ア 農地の有効利用の促進

- 農業の担い手を育成するとともに、農地利用の集積・集約化や遊休農地の発生防止・解消などにより、農地などの利用の最適化の推進に取り組みます。

イ 里山の保全

- 里山里地の再生・保全活動について、地域で自立して継続的に実施できるよう支援します。
<重点プロジェクト4，P46参照>

【関連計画：福山市農林水産振興ビジョン】

ウ 自然と触れ合う機会の充実

- 森林公園などの自然と触れ合う場を維持するとともに、自然観察会や野鳥観察会を開催するなど、自然と触れ合う機会の充実に取り組みます。

2 里海の保全

ア 栄養塩類の適切な管理

- 貧栄養化の改善に向けて、下水道処理施設やし尿処理施設において、栄養塩管理運転の試験的運用に取り組むなど、海域の栄養塩類の適切な管理に取り組みます。

イ 海ごみ対策の推進

- 関係機関と連携し、海浜清掃や海底耕うん（清掃）、漂流ごみの回収などに取り組みます。

【関連計画：福山市農林水産振興ビジョン】

ウ 藻場等の海洋生態系の維持・拡大

- 藻場等の海洋生態系を活用した新たな温室効果ガス吸収源対策の検討を行うとともに、それらの生態系の維持・拡大に向けた取組を推進します。

<重点プロジェクト1，P40参照> <重点プロジェクト4，P46参照>